主張

# 教員不足の解消に向けて

神谷祥久

今年の五月、中教審の特別部会において「『令和の日本型学校教育』を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について」審議のまとめが公表されました。このまとめは、学校教育の質の向上を通じて、全ての子供たちへのより良い教育を実現するためには、主体的・対話的で深い学びと「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることが必要であり、そのために質の高い教師をどのように確保・育成していくべきかについてまとめたものと捉えています。そのような中で、全国的に教員が不足しているという状況は由々しきことであり、教育行政機関と学校が一体となって解決・解消すべき問題であると考えています。

島根県においても全国と同様に教員が不足しており、その要因・背景として、①近年の大量退職や特別支援学級の増加　②学校の抱える課題の複雑化・困難化を背景とした手厚い教員配置　③新規採用者の増加による講師不足などが考えられます。島根県教育委員会では、学校に対する負担軽減策として、常勤教員の未配置校へ非常勤講師と教員免許を必要としない校務支援員をセットで配置したり、定年前再任用短時間勤務を導入したりしています。また、教員志望者の拡充策として、県内大学一・二年生を対象に学校職場体験を

実施したり、県内公立高等学校において教師塾（教員志望セミナー）を開催したりしています。

学校においては、時間外勤務の解消や生徒指導上の対応支援も含めた勤務環境の整備といった働き方改革を進めることはもちろんですが、私は、教職員一人一人が「働きがい」を感じられる学校経営を進めることが私たち校長にできる一番の方策であると思います。明るくやる気に満ちた教職員のそろった学校では、より良い教育活動が展開され、生徒が未来の自分の姿を思い描くことができるとともに、教職の魅力にも気付き、教員志望者の増加につながるものと考えます。

教職員が「働きがい」を感じられるよう、本校では、「対応の相談ではなく、方向性の相談」と「学年主任の声掛け」を特にお願いしています。方向性の相談とは、何か問題が起こりそうな時、起きた初期段階で、何をすべきか、どのように進めたいのかを早めに管理職と相談しましょうということです。物事を進めるときに途中で不本意に方向転換をすることは教職員のやる気の欠落にもつながります。最初にしっかりと思いの共有を図りたいと考えています。本校は一学年二九〇人の生徒数で小規模学校と同程度です。学年主任が教職員の困り感に気付き、適切なアドバイスを行うことが非常に重要となります。雑談と笑顔あふれる学年部となるよう、学年主任に声掛けをお願いしています。

先輩の先生からいただいた「時間がないと心がすり減る」「義理と人情と浪花節」という二つの言葉をいつも心に刻んでいます。学力・社会力・人間力を一体的に育てる学校だからこそ、教職員の心のゆとりと温かい人間関係を大切にしていきたいものです。

（全日中副会長・島根県松江市立第一中学校長）